

暁木会会員 各位

平成 26 年 9 月 吉日
暁 木 会

<http://www.gyoubokukai.jp/>

平素は、暁木会の活動にご支援とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。
今回の暁木会ニュース第27号では平成25年度総会報告に加え、スタートライン社会人(2年生)、大学からの橋本准教授の研究報告、現役学生の就職活動、あかつき会活動報告など幅広く会員様から寄稿して頂いております。今年度から【創造思考ゼミナールⅠ】と言う官・学連携した、大学の新たな取組みについても掲載しております。ぜひご通読頂けますようお願いいたします。今後は大学、学生、会員等の皆様に幅広くニュースをご通読して頂けますよう広報Gも頑張ってお参りたいと考えております。皆様にもご協力の程お願いいたします。

平成 25 年度総会

平成 25 年度の総会と懇親会を例年通り湊川神社の楠公会館で開催いたしました。今回の総会も例年通り、新入会員 102 名と対面形式の配席でとり行われました。

総会では、来賓紹介、会長挨拶の後、5 つの議案について議事が行われ、全会一致で可決されました。昨年まで行っておりました【卒業 50 周年祝金贈呈】につきましては、新制 12 回生様の強いご希望により廃止させて頂く事になりました。【新会員歓迎の言葉】は松尾幸治様(C97)により、新会員代表の挨拶は【暁木会会長賞】を受賞した本種志保様により、緊張感のある若者らしい挨拶をいただきました。【優秀学生表彰】につきましては 5 名が表彰を受けられ、各受賞者の方々からそれぞれご挨拶をいただきました。

懇親会は、来賓挨拶・乾杯を沖村孝名誉教授に、中村五郎様②の中締めで締めいただきました。

今年度の暁木会役員は会長に新制 26 回の畑恵介様、副会長に新制 29 回の油井洋明様、新制 32 回の河村優一様に、9 人の常任幹事で構成されることとなります。なお、議案の内容は HP の資料をご覧ください。



■写真：総会の様子

日 時：平成26年3月25日 総会18:00～19:20、懇親会19:30～21:00

会 場：湊川神社 楠公会館

出席者：ご来賓(名誉教授、教官) 29名、会員48名、卒業生・修了生102名 (合計179名)

議 事：1.会務報告 2.会計報告
3.監査報告 4.役員改選

【新会長：畑恵介⑳、新副会長：河村優一㉓】

【新常任幹事：芦田渉㉔、北田敬広98C、小川修隆院28】

5.予算案

次 第：・大学近況報告、支部活動報告、KTC報告

・暁木会会長賞：本種志保様 KTC理事長賞：田原俊彦様、
修士論文優秀発表賞：甲斐田秀樹様、堀田崇由様、

市民工学教室表彰：大上旭様

・新会員歓迎の言葉：松尾幸治様97C

・新会員代表の挨拶：本種志保様

懇親会：来賓挨拶・乾杯：沖村孝名誉教授

中締め：中村五郎様㉒

会員数：卒業・修了者：4,662人、会員数3,683人 (平成26年4月1日現在)

H26年度役員

会長：畑恵介⑳、副会長：油井洋明㉑・河村優一㉓、KTC理事：石岡崇㉑、

足立吉之㉑、水池由博㉒、常任幹事：宇都善和㉔、中山徹97C、芦田渉㉔、

伊賀正師㉕、山下剛㉖、北田敬広98C、矢野芳広㉕、恒藤博文㉖、小川修隆院28



■ 華やかな新会員の面々



■ 新会員代表挨拶 本種志保様



■ 懇親会中締め 中村五郎様㉒

スタートライン

安全・安心な鉄道を今後も目指して

南海電気鉄道株式会社 鉄道営業本部 工務課 高野線保線区 塩見拓也 IIC

私は2013年に南海電気鉄道株式会社に入社し、今年で2年目になります。在学時は、三木先生のご指導のもとで、コンクリートの研究を行っておりました。

入社後、4ヶ月の新入社員研修を経て、現業部門の高野線保線区に配属となりました。私が現在担当している業務は主に以下の3点です。

- ①営業材料費・備用品費の予算管理業務
- ②線路構造物の点検及び管理
- ③防災システムの建設工事

①についてですが、軌道を保守するために必要となる材料の発注・検収業務を通じて予算管理を行っております。材料納入においては、納入業者と細かい調整などをこなし、管理・運用を的確にコントロールするように努めています。

②についてですが、高野線（但し、岸里玉出～極楽橋・高野山間に限る）内全ての橋梁・高架橋・トンネル・法面・伏せび・駅のプラットフォームを対象とし、メイン担当として点検を実施しております。前回の点検結果を踏まえて進展しているか変状がないかを調査し、その結果に基づいて保守計画を立てています。なお、私は高いところが苦手なので、橋梁や高架橋の点検には神経をたくさん使いました…。

③についてですが、当社が保有する雨量計の点検を安全にするための安全対策工事を行っております。計画・施工・竣工まで一連の流れ全てに携わることができ、自分がイメージしたものを形として残せることにやりがいを感じて取り組んでおります。

現在の職場に配属になって最初のころは、いきなり多種の業務を任せられ、戸惑いを感じることが多々ありました。焦ることによってミスを何度もしてしまい、反省してばかりの日々でした。しかし、配属から1年経った今、仕事にも大分慣れきて、決められた業務をこなすのはもちろん、自分のアイデアで現場をよくできるように、日々試行錯誤しながら業務に取り組んでおります。今の目標は、周囲から頼られる存在になることです。そのためにも、保線や土木の知識の習得に注力し、一日でも早く、その分野のプロフェッショナルになれるよう注力していきたいと思っております。



白鷺分岐改良工事 風景

研究報告（鋼橋の腐食損傷と残存性能）

准教授 橋本国太郎

4月から市民工学専攻に着任いたしました橋本と申します。はじめに簡単な自己紹介をさせていただきます。前職は京都大学大学院社会基盤工学専攻の構造力学研究室で助教として、鋼構造物や複合構造物（主に橋梁がメイン）の耐荷力・耐震・維持管理に関わる研究を進めて参りました。また、京都大学で働く以前は、神鋼鋼線工業で斜張橋やニールセンローゼ橋などのケーブル系橋梁のケーブル設計や落橋防止ケーブルなどの設計業務に携わっておりました。このように、私はこれまで、鋼橋に関わる仕事や研究に携わっており、神戸大学でも、鋼構造や複合構造に関係する分野の研究を進めたく思っております。

現在、インフラ構造物全体で維持管理に関わる諸問題が多く発生していることは、すでにご存じかと思われます。私の研究分野である鋼橋などの鋼構造分野でも、腐食や疲労などの鋼構造物の維持管理に関する問題が顕著となっており、現在、大きな課題となっております。私も京都大学のときから、この鋼構造物の維持管理に関する研究課題に取り組んできておりましたので、本日は、私が関わってきた研究テーマの一つであります「**鋼橋の腐食損傷と残存性能に関する研究**」に関して、簡単に紹介させていただきます。

鋼橋で腐食しやすい箇所としまして、桁端部やボルトやリベットなどの接合部です。写真に示しますように、最近では、鋼桁の端部で、腐食によって向こう側が見えてしまうような腐食やリベットやボルトの頭が大きく減肉してしまうほど腐食が進行しているケースが多々見られるようになってきております。特に、リベットを多く使用している古い鉄道橋では、沿岸部などでかなり深刻な腐食が見られる場合もあります。どの程度の腐食であれば、その構造物や構造要素としての耐荷力・強度が保証されるのか？という疑問は当然ながら出てくると思います。一例として、リベットの頭部が腐食損傷した時のリベット継手の残存強度を解析的に検討した事例を図1に示しております。図1よりわかることは、頭部が無くなるような損傷が起ると健全な場合に比べ大きな強度低下が見られます。また、接合方法の違いで差異が生じることもわかりました。次にボルト継手の場合はどうでしょうか？通常、ボルト継手はボルトを締めることで板同士に発生する摩擦力によって抵抗する荷重機構となっております。当然ながら、ボルト頭部が腐食し減肉するとボルト軸力が抜けることが想像できます。図2は、ボルト頭部を減肉させていった時のボルト軸力と減肉量との関係を示しております。この図から、減肉量が大きくなると軸力も大きく減少していきます。さらに図3は、ボルト継手のすべり係数の変化を示しております。



写真-1 鋼橋桁端部の腐食例



写真-2 リベットの腐食例



写真-3 ボルトの腐食例

これは促進実験後に引張試験を行うことで、実験的に得られた結果ですが、これより、すべり係数は促進期間が長くなれば上昇していくことがわかります。これは、接合面内部が酸化することによって、この酸化物の影響ですべり係数が増加したと考えております。これらよりボルト継手では、腐食により軸力は減少しますがすべり係数は増加し、トータルで見ると継手としての強度低下はあまり起こらないということを示唆しております。

以上、簡単な説明でしたが、現在まで行ってまいりました研究の一つを紹介させていただきました。今後は、このような構造要素レベルだけでなく、構造物全体としてどうなるか？などの様々な視点で検証を進めていきたいと考えております。今後とも、何かとお世話になることがあるかもしれませんが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

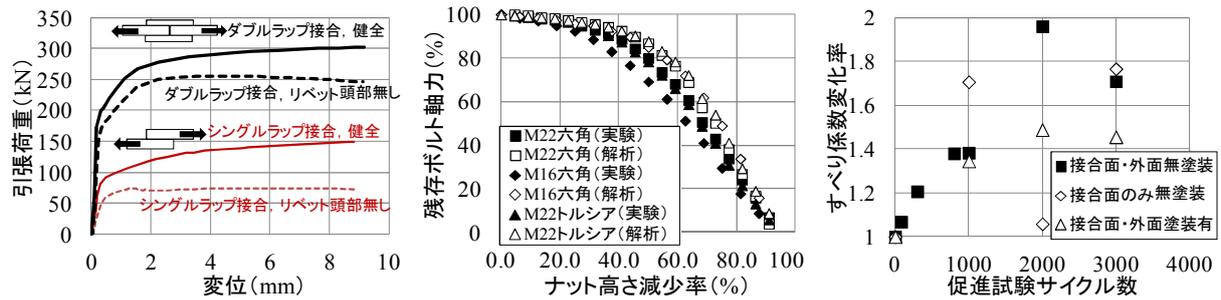


図-1 リベット継手の残存強度 図-2 ボルト軸力と減肉量 図-3 すべり係数の変化

創造思考ゼミナール I (人材育成セミナー)

市民工学科学科長 藤田一郎

創造思考ゼミナール I は、4月に市民工学科に入学したばかりの新入生（約 60 名）と 3 年次編入の学生（数名）を対象とした必修単位の授業である。シラバスによれば、この授業の目的は、「市民工学に関連した共通テーマを設定し、討議、調査、分析、発表を通じて、創造的思考のための方法および技術を修得させ、主体的に勉強および研究に取り組む能力を養うこと」とされている。学習目標には、問題発見能力、ディベート能力、分析・批判・評価能力、及びプレゼンテーション能力、の各修得を挙げている。担当教員は 8 名で、各教員に 7～8 名の学生を割り当てグループ単位で授業を進めるスタイルをとっている。テーマは学生を中心に指導教員がアドバイスする形で決定するが、途中で行う中間発表や最終発表へ向けた議論・討論はもっぱら学生を主体として進める。私の GP では水災害をテーマにしたが、ともすればインターネット情報のコピペで終わってしまう懸念もあるため、神戸市や兵庫県の関係部局の OB を訪問し、現在の対策などについて情報収集するように仕向けた。学生たちは、今回の貴重な体験をもとに議論をさらに深めていくくれるはずである。ただし、学生には数年後のことではなく、50 年後、100 年後のことを見越して大胆で夢のある提案をするように度々伝えている。現状をある程度把握できた彼らが、今後どのような最終発表をしてくれるのか楽しみなところではある。今回の訪問は学生にとって刺激に富んだ良い体験となったようで、忙しい中、学生の相手をしていただいた神戸市の畑恵介氏と兵庫県の石原純氏をはじめ、お手伝いいただいた方には大変感謝しています。ありがとうございました。

兵庫県での治水・津波・土砂災害対策

日 時：平成 26 年 6 月 13 日（金）13:30～15:00

場 所：兵庫県庁河川整備課水防本部

対象者：工学部市民工学科 1 年生

創造思考ゼミナール受講学生 藤田ゼミ 8 名

テーマ：兵庫県における総合治水の取組

（ながす・ためる・そなえる対策）

南海トラフ地震に備える津波対策

土砂災害対策の推進について

小柴陽平

私たちは創造思考ゼミナールⅠという講義の中で災害に強い都市について調べています。そこで兵庫県では災害に対してどのような防災措置をとっているか知りたいと思い、県庁を訪ねお話を伺いました。多忙にもかかわらず私たちの知りたいことをパワーポイントを交えて分かりやすく説明してくださいました。話の中には市民工学科の講義で習ったことも出てきてとても有意義な時間を過ごすことが出来ました。実際に防災に腐心している方々の話を伺って、自分の中の防災に対する意識を見つめ直す良い機会になったと思います。



【兵庫県 水防本部にて】

神戸市での水災害の原因と対策

日 時：平成 26 年 6 月 20 日（金）13:20～15:30

場 所：神戸市役所下水道河川部会議室

対象者：工学部市民工学科 1 年生

創造思考ゼミナール受講学生 藤田ゼミ 8 名、小林ゼミ 5 名

テーマ：水災害の原因と対策

神戸市の水害の歴史

神戸市での河川、下水道、治山、砂防の取り組み

後藤 涼介

先日はお忙しい中、私たちのためにお時間を割いていただきありがとうございました。畑さんには大雨による河川の下水について教えていただきました。伺ったお話の中で特に印象深かったのは、「神戸の河川は、氾濫させない。」というお言葉でした。とても感銘を受けました。仕事に対する責任感や誇りがひしひしと伝わり、とてもカッコいいと思いました。お仕事も大変困難なものだと知りました。ひとつの事業を実行するのに様々な障害があり、例えば地域住民や環境、景観、融資等の問題を話し合いで解決し、事業を達成していく。とても地道で根気が必要だと思います。ですがその責任感と誇りを賭けて全力で仕事をなさっているのです。私も将来、自分の仕事に誇りを持てる大人になれるよう、勉強に励みたいと思います。



【神戸市 河川部会議室にて】

現役学生生活紹介（就職活動報告）

橋本 真基

私は、12月から約4ヶ月の就職活動を経て、東京急行電鉄から内定を頂くことが出来ました。私が企業を選ぶ軸としては巨大なモノづくりができ、その創りあげたモノが多くの人を巻き込み、この【新しい流れが新しい文化を創り出せる】企業が私の軸でした。この軸を主体に、鉄道業界、不動産業界、建設業界を中心に就職活動を進めました。その中でも私鉄を第一志望にした理由としては、生活の中の交通を支え、安心・安全を第一にする堅実な都市交通事業にベースを置きながらも、沿線住民がより住みやすくするためにはどうすればいいのか、と常にお客様側に立ち、チャレンジしていく風土に惹かれたためです。私鉄の中でも東京急行電鉄を選択した理由として、①渋谷を始めとする開発する余地が多くあること、②街づくりに対して非常に幅広い選択肢を持つという2つ大きな強みを持つため、【新しい人の流れの創造に、一生挑戦し続けられる】と考えたためです。

就職活動を通じて学んだことは「何事も徹底的にやり抜く」「熱意は必ず伝わる」「縁は大切に」ということの3つです。企業研究では駅や商業施設の見学を関東出身の学生に負けないぐらい行いました。見学に行った時は写真のように42年ぶりの大雪の日でしたが、めげずに吸収し続けました。自己分析や企業研究は行えば行うほど、深みに入り、非常にハードでしたが、先輩や同期の助けがあり、なんとか乗り越えることが出来ました。自己分析をやり抜いた後の面接では、あったけの熱意を伝えることが大切だと感じました。また、就職活動中では様々な出来事がありますが、ドクターイエローを見るなど、良いことがあり、それを縁だと思って、貫き通すことが私の動力となりました。最後になりますが、ESの添削や面接のアドバイスなど様々なことにわたってお世話になった、澁谷研究室の先輩方に感謝致します。最後の学生時代を謳歌しつつ、最高の修士論文を書き上げたいと思います。



岡本 健太

昨年12月から就職活動を行い、最終的に五洋建設株式会社から内々定を頂くことが出来ました。私は高校から大学院までの9年間、土木工学を専攻しており、また社会に「ものづくり」という形で貢献したいという想いが強く、就職先はそれらのことを考慮した結果、建設業界を志望しました。私が企業を選ぶ際に重要視したことは、企業が持つ強みや独自性です。建設業界という大きな括りの中で企業自身が激しい競争を勝ち残っていくためには、その企業独自の強みや特色が武器になると考えたからです。

以上のことを踏まえながら企業の説明会などに足を運び、実際に現場で働いておられる社員の方からお話を伺う機会がありました。就職活動に関する情報収集は企業のホームページや就活サイトなどがありますが、直接現場の声が聴けるため、自分が疑問に感じていたことや悩みなどを相談することが出来ました。また、何を考えながら日々の業務に取り

組んでいるかという社員の方の考えを聞くことで、自分自身がその企業に合う人間かどうかを判断する基準が出来たことは大変良い経験になりました。

そして、人生において初めて自己分析を行いました。自分の長所や短所、自分が何をしたいのかを具体的に考えることは予想以上に時間がかかりました。また、全く自分のことを知らない人に自分の性格や特徴を伝えることは大変苦労しました。しかし、就職活動という経験があったからこそ、いままでの自分が努力、熱中してきたことを振り返ることができ、自分のやってきたことに自信が持てるようになりました。就職活動のおかげで一人の社会人として成長したように思います。来年度からは一人の土木技術者として少しでも社会に貢献できるよう日々努力を惜しまず、精進していきます。

また、就職活動を通して、多くの方々と話をさせていただく機会があり、様々な価値観に触れることができたことは私の人生においてかけがえのないものとなりました。私の指導教官や研究室の先輩、友人、そして両親に大変お世話になりました。この場を借りて私を支えてくれた方々に感謝の意を表します。

直原 悠紀子

私は昨年から就職活動を行い、株式会社ニュージェックに内定をいただくことができました。かねてより志望していた土木業界で建設コンサルタントの道が拓けたことを嬉しく思っております。

初めに私が土木という分野に興味を持ったきっかけは、幼いころから親しんできた風景が時とともに変化していく光景でした。私の実家は岡山県中央部の片田舎で、丘陵の間を河川が縫うように流れており、それに沿って田畑や人家が点在しています。風景の変化は大雨による自然災害やそれに対する対策工事あるいは住民の高齢化と過疎によってもたらされたものでした。特に、平成十年台風十号の接近に伴った大雨による水害を機に堤防や道路の嵩上げ、護岸工事などが多く行われ、川沿いの景色が大きく変化していきました。また、高齢化と人手不足のために耕作が行われない田畑が目立つようになり、それらは埋められて住宅造成地になりました。私はこれらの様子を間近に見て、風景が変化していく原因は何か、変化は人々と自然環境にどのような影響を与えるのかを知りたいと思うようになりました。そして現在は大学で学んできた知識や技術を用いて実際の河川環境の状況や地域の人々の利害を調査・分析し、人と自然が共生するためのより良い環境のあり方やそのあり方に近づくための方法を考えていきたいと思っています。

建設コンサルタントを志望した理由は、働くことを通して調査・分析能力の向上を図りながら知識や経験を積み重ねていくことができると考えたからです。さらに、会社の中に様々な分野の部署があり、各分野のスペシャリストが同じ職場で働いているという環境は己の知識と見聞を広める助けとなると感じました。土木業界では女性より男性が有利であり、男社会であるという世間の印象は未だありますが、それに負けないくらい土木という分野には大きな魅力があり、また女性としてできることもあるのではないかと思います。

就職活動では自分自身の生い立ちや考えを見つめ直し、私は今まで家族や友人、先生方など多くの人に支えられてきたことを再認識しました。また、企業の社員の方々とお話しする機会が多々あり、改めて人の繋がりの大切さと尊さを実感しました。これからはどのような状況でも人を敬う気持ちと感謝の心を忘れず頑張っていきたいです。

「あかつき会」について（入会のご案内）

本会は、暁木会員の内有志をもって組織されたゴルフ競技会の名称で、ゴルフを通じ会員相互の親睦を図り、併せて情報交換及び革新の時代に対応する諸研鑽を行うことを目的として、旧制 15 回～17 回の有志の方数名が世話人となり、昭和 30 年代前半に設立されました。（Ⅳ回山本潤吾氏談）。当時は、ゴルフ場は数えるほどしかなく、プレーをする対象者も極めて限られていた時代でした。

その後、ゴルフを取り巻く環境は、ゴルフ場数、プレー人口・費用面等において時代とともに劇的に変化し、今や誰もリーズナブルにプレーができるようになりました。

このような中で、第 170 回という節目の「あかつき会」を去る 6 月 30 日、アオノゴルフコースで 38 名参加の下に開催しました。梅雨の真最中の時期であり、雨を心配していましたが、幸いにも絶好の日和に恵まれプレーを楽しむことが出来ました。

ところが、設立以来 50 数年の歴史と伝統を有する本会も参加者の硬直化が目立ち、今回も 22 回生以降の方の参加者が皆無という状況でした。

そのため、暁木会員で特に 22 回生以降の方は本会に入会をして頂きたいとの趣旨から、「あかつき会」の PR と併せて入会のご案内をさせて頂きました。是非とも、遠慮なく **下記連絡先宛に入会申し込みをして下さいます様**お願い申し上げます。

現在の組織は、会長：⑳立花成介、常任幹事：⑲森章次の下、会員数 60 名で、4 回/年開催し毎回の参加者数は 30 名強の状況です。因みに、入会金は不要です。



第 170 回あかつき会（H.26.6.30.）アオノゴルフコース

【入会連絡先】

青野運動公苑 アオノゴルフコース

代表取締役社長 森 章次（⑲回）〒675-2404 兵庫県加西市油谷町 639 番地の 3

アオノゴルフコース TEL (0790) 45-1556 FAX (0790) 45-0990

URL <http://www.aono-undoukouen.com>

e-mail mori@aono-undoukouen.com

（文責⑲梶谷義昭）

支部総会の報告

東京支部報告

平成 26 年度暁木会東京支部総会を平成 26 年 6 月 6 日（金）、ホテルグランドヒル市ヶ谷で開催しました。来賓として大学より加藤正司准教授、暁木会本部 畑恵介会長にご出席いただき、また東京支部会員は 46 名が参加しました。

総会前に山口大学大学院理工学研究科・社会建設工学専攻 清水則一教授(新 26)より「研究成果を国際基準に－GPS 変位計測技術を例として－」というテーマでご講演いただきました。

総会では山下支部長の挨拶に引き続き、通常議案が滞りなく審議されました。

畑会長よりご挨拶と本部の活動状況のお話しをいただいた後、最後に本部助成金目録の支部長への授与をもって総会議事を終了しました。

懇親会は冒頭に加藤先生より大学の近況のご報告をいただき、参加者最長老である和久昭正氏（新 15）による乾杯の発声により始まりました。途中、旧交を温めるグループ、先輩のお話に耳を傾ける若手などあちこちで歓談の輪ができ、盛況な中、懇親会が終了しました。

平成26年度は支部長、副支部長のもと、いっそう暁木会の活動の輪を拡げていきたいと事務局一同、考えております。どうぞみなさまのご支援、ご協力のほどよろしくお願い致します。

報告者 東京支部事務局 株式会社建設技術研究所 野村 貢③



清水教授の講演を熱心に聴く出席者の皆様

支部総会の報告

広島支部報告

平成26年暁木会広島支部総会を平成26年8月1日（金）に、KKR広島にて開催しました。来賓として、大学より芥川真一教授、暁木会本部より油井洋明副会長にご出席をいただきました。広島支部会員は13名が参加しました。

総会は、岡崎支部長のご挨拶より始まり、次に油井副会長よりご挨拶と本部の活動状況のお話をいただきました。続いて、芥川先生より大学の近況について、建設業への就業者が持ち直す傾向にあることや、神戸大学の教職員の専門分野が多様化していることをお話いただき、会員は皆さん時代の変化を感じつつも興味深く聞き入っておりました。最後に通常審議をもって総会議事を終了しました。

総会後には懇親会を催しました。旧交を温めるグループや、先輩と交流を深める若手など、あちこちで歓談の輪ができ、盛況の中、懇親会は終了しました。

事務局一同、今後も暁木会の活動が活性化するよう努めてまいります。みなさまのご支援、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

報告者 広島支部事務局 復建調査設計株式会社 木村 裕行 08C



図-1 岡崎支部長のご挨拶



図-2 油井副会長のご挨拶



図-3 芥川先生からの近況報告



図-4 懇親会

暁木会年会費納入のお願い

平成 15 年度から現在、1,100 余名(会員総数 3600 余名)を数える会員の皆様方の会費によって、暁木会の日常活動を進めております。会員の皆様には、暁木会の活動にご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

しかしながら、暁木会の安定した運営を行うためには、未だ十分な財源が確保できておりません。現在、KTC のメーリングリストや、クラス幹事、各職場の世話人を通じて会費納入の依頼を行っているところです。会費会員へのサービスとしては、暁木会ニュースおよび会員名簿の発行をさせていただいております。会費納入の手続きが未了の会員各位には、手続き関連書類を送付いたしますので、下記の連絡先にご連絡くださいませ。よろしくお願ひ致します。

※年会費の集金方法につきまして、現在、集金代行業者（三菱UFJニコス株式会社）に委託し、会員の指定金融機関から年 1 回の自動引落しの制度を採用いたしております。

平成 26 年度の名簿発行について

今年度は、2年に1回の名簿の修正版を発行する年となっております。会員の皆様には情報の更新にご協力いただき、ありがとうございました。まだ会員登録の修正がお済みでない会員の皆様には至急ご回答をお願い致します。主な登録内容は以下の通りとなっております。変更がございましたら、お手数ですが、KTC事務局（TEL:078-871-6954、FAX:078-871-5722、E-mail:shindou@people.kobe-u.ac.jp）にご連絡いただきますようお願い申し上げます。なお、前項にも触れましたが名簿は会費会員にのみ送付しております。この機会に会費のお支払いを是非ご検討頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。主な登録内容：①勤務先名称、②勤務先所属部署名、③勤務先役職名、④勤務先郵便番号、⑤勤務先住所、⑥勤務先TEL、⑦勤務先FAX、⑧勤務先E-mail、⑨現住所郵便番号、⑩現住所、⑪現住所TEL、⑫現住所E-mail

おわりに

最後になりましたが、業務多忙の折、執筆を引き受けてくださった皆様に心からお礼申し上げます。また、会員の皆様から、本ニュースへの新企画、寄稿などを募集しています。特に、同窓会をされた際には、ぜひその様子を寄稿下さいませ。その他、ご意見ご要望等がございましたら、下記連絡先までよろしくお願い致します。

発行者：暁木会
 連絡先：常任幹事 広報 G 小川 修隆 院 28
 株式会社竹中土木 大阪本店
 TEL：06-6252-4084 FAX：06-6271-0743
 E-mail：ogawa-n@takenakadoboku.co.jp